

日本の建築史において名作と称される住宅は様々ありますが、名作と聞いて皆さんはどういった住宅を思い浮かべるでしょうか。奇抜で間取りも特殊な住宅。変わった場所に建てた住宅。建築家のアイデア、コンセプトと住み手の覚悟が伝わる住宅：その中でしばしば見かけるのが「小さな住宅」。

それは単に敷地が小さい、いわゆる「狭小地」に建ててが故の場合もあれば、敷地が大きくても生活や持ち物を最小限に抑えた故の場合もあります。狭小地と聞くと、皆さん、想像する大きさは様々かと思いますが、いずれも狭い＝窮屈な暮らしというマイナスイメージにはお変わりないでしょう。

新築を建てるなら明るく快適に、のびのびとした暮らしをどなたも望まれます。その限られた条件に建てた住宅の数々が名作に含まれる所以は、その悪条件を建築家（もちろん住み手も）がいかにか克服したかが非常に大きく、外部からは想像も出来ないほど開放的で、豊かな生活を送っていることが多いです。一般的な家族構成に当てはまるとされるコピー&ペーストされた間取りの住宅では、決して得られません。

大は小を兼ねるのか

「大は小を兼ねる」数多ある中でも比較の日頃から耳にすることわざの一つです。文字通り、「大きいものは小さいものの代わりになる（役に立つ）」という意味合い。100m<sup>1</sup>のコップでは200m<sup>1</sup>を汲めませんが、その逆は可能です。また、18畳の部屋は10畳用のエアコンでは不十分ですが、20畳用のモノは18畳でも10畳の部屋でも補えます（間取りや設置場所の関係はここでは考えず）。

しかし、必ずしもそうとは限らないということを誰しもが経験したことはないでしょうか。正確には大は小を兼ねても、「心地よさ」「ちょうど良さ」とは全く別の話で、その他諸条件にもよるといふことです。

腰掛けるだけでなくゴロゴロ寝転がれる大きなソファは魅力的で

## 小さく豊かに暮らす。

zuiun便り vol.45

すが、部屋の大きさ次第では大き過ぎてかえって不快な存在になってしまう。皆さんはそのことを自然と察知しソファ選びをされます。「住宅（暮らし）の中で」という条件が加わると、途端に大は小を兼ねなくなることが増えてきます。それなら「部屋を広くすれば良い」と思われるかもしれませんが、夏・冬の室内環境をご想像頂くと、それも一概には言えないとお分かりかと思えます。また、新築住宅においては、「ご予算」というまた別の条件も増えてくることもネックとなります。

お家の大きさも大切かもしれませんが、暮らしの中でも身近な存在であるソファなどの家具を選んでからお家の設計をする、間取りを考えるとこの利点は正にここにあります。置きたいソファを置いてもゆとりのあるリビング、そこからダイニングテーブルやキッチンの位置関係を検討していく。同時に周辺環境との繋がりを考慮していく：そこには過不足が少なく、心地良い空間となっております。部屋の大きさに合わせて家具を選ぶのでは手遅れなことが圧倒的です。ちょうど良さや心地よさはこれと決まった正解がなく、感覚的で非常に難しいことですが、それらのヒントやご参考に頂けることを提案することは可能です。

様々な内覧会に赴いた際には各会社の特徴を伺うだけでなく、設計手順まで聞いてみることも大切かもしれませんね。

今回ご覧頂くのは元々住まわれていた場所での新築建て替えのお家です。元々のお家での不便だった点を解消することはもちろん、これまで気づかなかった敷地周辺環境の良さを取り込んだお家に仕上げております。午前中の心地よい自然光を感じ、真昼の直射は遮る。ふと目を向けると周囲の草木や紫陽花の鮮やかさが目に留まります。もちろん、既にお持ちの家具に合う間取り、豊かな暮らしの御提案も忘れておりません。

この度、このような機会を設けて頂きましたH様にはこの場をお借りして、感謝申し上げます。8年ほど前にzuiunでご購入頂いた家具たちと共に、今後も豊かな暮らしを送って頂けますよう祈っております。